

組 番 氏名

著作権の関係上、一部の問題を掲載していません。

1 次の一、二の問いに答えなさい。

一 次の1から3までの文中の——線部の漢字の正しい読みを、ひらがなでていねいに書きなさい。

1 握力を測定する。

2 互角の勝負が続く。

3 影響が大きい。

二 次の1から3までの文中の——線部のカタカナを漢字に直し、楷書でていねいに書きなさい。

1 バスがテイシャした。

2 肉をやく。

3 ハゲしい雨が降る。

2

次の1から6の文の【単語の数】と【文節の数】の組み合わせとして正しいものを、下の□のAからEまでの中から一つ選びなさい。(同じ記号を何度選んでも構いません。)

(例) 森の中に家が ある。

【単語の数】 二七

【文節の数】 二四

- 1 花だんに白い花が咲く。
- 2 大きい犬が、えさをたくさん食べる。
- 3 来月、学校で体育祭がある。
- 4 江戸の知恵を現代に生かす。
- 5 弟が、駅に行く。
- 6 風が、花のにおいを運ぶ。

ア	【単語の数】 五、	【文節の数】 三
イ	【単語の数】 六、	【文節の数】 四
ウ	【単語の数】 六、	【文節の数】 五
エ	【単語の数】 七、	【文節の数】 四
オ	【単語の数】 七、	【文節の数】 五

国語 解答用紙

1	1	2	3
---	---	---	---

二	1	2	3
		(く)	(し)

2	1	2	3

4	5	6

（ここから左には解答を書いてはいけません）

学校名	組	出席番号	氏名	/12問中

1

■ 正答

- 一 1 あくりよく
2 2 ごかく
3 3 えいきょう
- 二 1 停車
2 2 焼（く）
3 3 激（しい）

2

■ 正答

- 1 1 イ 2 オ 3 イ 4 エ 5 ア 6 エ

■ 考え方

「単語」は、言葉の意味を壊さないように、文節をさらに細かく分けたものです。

「文節」は、発音や意味が不自然にならないように、文を短く区切ったまとまりのことです。例えば、「ね」「さ」などを入れて、不自然でないところで区切ります。

1

次の計算をなさい。

(1) $0.6 \times \frac{2}{5}$

(2) $10 - 8 \div (-2)$

(3) $4(3x - 2) + 3(2x + 5)$

(4) $\frac{3x - 1}{4} \times 8$

2

次の方程式を解きなさい。

$$(1) 2x - 3(1 - 2x) = 5$$

$$(2) \frac{3}{4}x + 3 = 2 - x$$

3

下の文章を読んで、次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

何人かの生徒に折り紙を配ります。1人に4枚ずつ配ろうとすると21枚余り、1人に6枚ずつ配ろうとすると3枚たりません。

(1) 生徒の人数を x 人とし、方程式をつくりなさい。

(2) 生徒の人数を求めなさい。

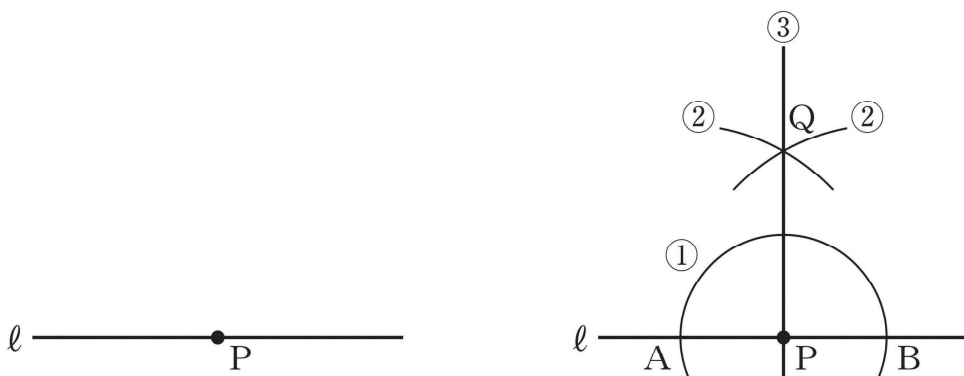
(3) 折り紙の枚数を求めなさい。

4

直線 l 上の点 P を通る l の垂線を、次の①、②、③の手順で作図しました。

【作図の方法】

- ① 点 P を中心として、適当な半径の円をかき、直線 l との交点をそれぞれ、点 A 、点 B とする。
- ② 点 A 、点 B を中心として、等しい半径の円を交わるようにかき、その交点の1つを点 Q とする。
- ③ 点 P と点 Q を通る直線を引く。



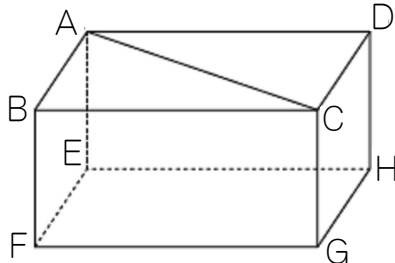
この作図の方法は、対称な図形の性質を用いているとみることができます。どのような性質を用いているといえますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 点 A を対象の中心とする点対称な図形の性質を用いている。
- イ 点 B を対象の中心とする点対称な図形の性質を用いている。
- ウ 点 Q を対象の中心とする点対称な図形の性質を用いている。
- エ 直線 AB を対称軸とする線対称な図形の性質を用いている。
- オ 直線 PQ を対称軸とする線対称な図形の性質を用いている。

5

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 下の図のような直方体があります。ACは長方形ABCDの対角線です。このとき、直線ACと平行な面を書きなさい。



- (2) 図1は底面の円の半径が3 cm、高さが4 cm、母線の長さが5 cmの円錐の見取図で、図2はその展開図です。 x の値を求めなさい。

図1

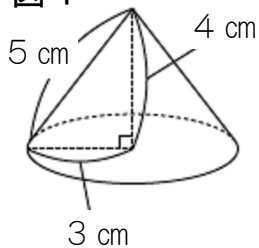
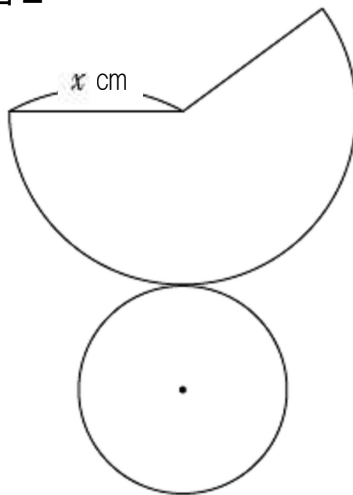


図2



- (3) 下の図1は円柱で、図2は円錐です。それぞれの立体の底面の円は合同で、高さは等しいことがわかっています。図1の円柱の体積が 600 cm^3 のとき、図2の円錐の体積を求めなさい。

図1

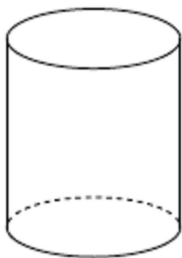
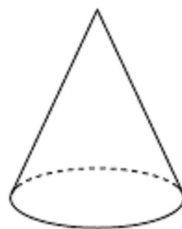


図2



6

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) y が x に反比例し、比例定数が -3 のとき、 x の値とそれに対応する y の値について、下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア x の値と y の値の和は、いつも -3 である。

イ y の値から x の値をひいた差は、いつも -3 である。

ウ x の値が 0 でないとき、 x の値と y の値の積は、いつも -3 である。

エ x の値が 0 でないとき、 y の値を x の値でわった商は、いつも -3 である。

(2) y は x に比例し、 $x = -10$ のとき、 $y = 5$ です。
このとき、次の①、②の各問いに答えなさい。

① y を x の式で表しなさい。

② 点 A がこの比例のグラフ上にあるとき、 に当てはまる数を求めなさい。

A (, -12)

(3) 「プールの水の深さは 120 cm 以下である」という数量の関係を、プールの水の深さを x cm として不等式で表しなさい。

7

生活委員会では、落とし物を減らすために、全15学級で落とし物調査を行うことにしました。

調査を同じ日数で2回行ったところで、拓也さんと優香さんは、その結果を表とグラフにまとめました。**優香さんが作ったグラフ**では、例えば、落とし物の個数が12個以上15個以下だった学級が、1回目、2回目とも1学級ずつあったことを表しています。

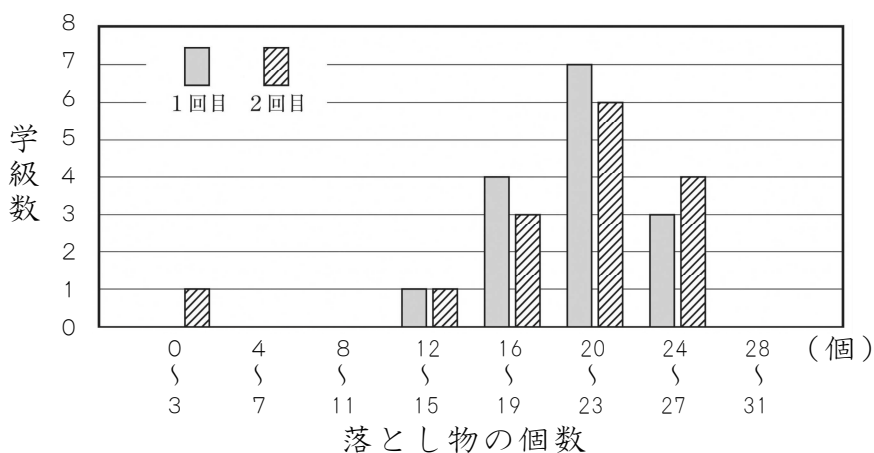
拓也さんが作った表

(個)

		1回目	2回目
種類	文房具	201	212
	ハンカチ・タオル	49	28
	その他	55	50
落とし物の合計		305	290
落とし物の合計の平均値 (1学級あたりの落とし物の個数)		20.3	19.3

優香さんが作ったグラフ

(学級)



二人は、調査結果について話し合っています。

拓也さん「落とし物の合計の平均値が20.3個から19.3個に減ったから、1回目より2回目の方が落とし物の状況はよくなったね。」
 優香さん「でも、平均値だけで判断していいのかな。グラフ全体を見ると、よくなったとは言い切れないよ。」

グラフを見ると、優香さんのように「1回目より2回目の方が落とし物の状況がよくなったとは言い切れない」と主張することもできます。そのように主張することができる理由を、**優香さんが作ったグラフ**の1回目と2回目の調査結果を比較して説明しなさい。

数学 解答（生徒用）

1	(1)	$\frac{6}{25}$ [0.24]	(2)	14
----------	-----	-------------------------	-----	----

(3)	$18x + 7$	(4)	$6x - 2$
-----	-----------	-----	----------

2	(1)	$x = 1$	(2)	$x = -\frac{4}{7}$
----------	-----	---------	-----	--------------------

3	(1)	$4x + 21 = 6x - 3$	(2)	12人
----------	-----	--------------------	-----	-----

(3)	69枚
-----	-----

等しい関係になる数量を2通りの方法で表し、等式をつくるのが大切です。

4	ア イ ウ エ ●
----------	-----------


5	(1)	(例) 面EFGH	(2)	5	(3)	200 cm ³
----------	-----	-----------	-----	---	-----	---------------------

面FGHEや面HGFE等も正答です。

円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の1/3となります。

学校名	組	出席番号	氏名	
				/18問中

6

(1)		(2)	$y = -\frac{1}{2}x$	(2)	2 4
		①		②	

(3)	$x \leq 120$
-----	--------------

7

(例)
2回目の調査結果では、落とし物が1学級だけ^{きよくたん}極端に少ないから平均値が下がっているだけで、他の学級の落とし物の状況がよくなっているとは限らないから、1回目より2回目の方がよくなっているとは言い切れない。

次の(a)、(b)、(c)のいずれかと、(d)について記述していれば正解です。
(a) 2回目の調査結果では、落とし物が極端に少ない学級があるから、平均値が下がっていること。
(b) 1学級を除くとグラフの形がほとんど変わっていないこと、最頻値がかわらないこと、中央値が含まれる階級が変わらないことのいずれか。
(c) 落とし物の個数が24個以上27個以下の学級が増えていること。
(d) 1回目の調査結果より2回目の調査結果の方が、必ずしもよくなったとは言い切れないこと。